

主 題：救われた者への神の祝福 2

聖書箇所：ローマ人への手紙 5章1－11節

私たちはもうすでにこの5章1－2節から、義とされた者、すなわち、私たち救われた者に与えられた神の祝福、すばらしい約束を見て来ました。ここには三つの祝福、約束が記されていますが、その二つについてすでに学びました。イエスを信じた者は「神との平和」を得ました。救われた私たちは全能の真の神と平和をもつことが赦されたのです。敵対関係にあった罪人である私たち一人ひとりが神と和解して神との平和を得たのです。どうですか？クリスチャンの皆さん、あなたはそのことを喜んでおられますか？神と和解できたことを感謝しておられますか？あなたはもうすでにサタンの奴隷でもサタンの子でもなくなったのです。あなたは神の子ども、神の奴隷とされたのです。そのことを心から喜んでおられますか？パウロは喜んでいました。このすばらしい恵みを覚えて、その恵みを与えてくださった神を称えていました。それがあなたの生き方でしょうか？イエスを信じた者にとってこのことはもうすでに過去に起こったことです。パウロは神との平和を得たという過去の出来事を語っただけではありません。二つ目に、今現在のことを彼は私たちに教えてくれました。それは「神との交わり」が与えられたということです。全能の神と和解しただけでなく、この神といつでも親しい交わりを継続して持ち続けることができるのです。私たち信仰者は全能の神の前にいつでも自由に立つことが許されたのです。この神といつでもどんな時でも交わることができるのです。教会にいても職場にいても自宅にいても、道を歩いていても車を運転していても、床についていても、どんな時でも自由に神と交わることが許されたのです。神はいつでもあなたの声に耳を傾けてくださるのです。

すでに見たように、2節に「**信仰によって導き入れられた**」とあるとおり、神に接近すること、神に近づくことが許されたのです。しかし、このようなすばらしい祝福を私たちは自分の手で得たではありません。父なる神と私たちの間をとりもつ仲介者であるイエス・キリストの贖いのみわざによって、イエス・キリストを信じた私たち一人ひとりに神はこのような祝福を与えてくださったのです。今、私たちは神と親しい交わりをいつも持つことができます。皆さんはその交わりを楽しんでおられますか？このような祝福に与ったことを喜び、そのことを感謝しておられますか？それとも、神との時間よりも趣味に費やしている時間の方が長いのでしょうか？趣味の時間の方を楽しんでいませんか？パウロはこの神との交わりを何ものにも勝る喜びと感じていました。何ものにも勝る特権と思っていました。なぜなら、神といつでも話すことが出来る、いつでも神と交わることが許されているからです。あなたはそのことを本当に喜んでいのかどうか、どうぞ自分自身に問いかけてみてください。また同時に、そのことを楽しみと感じているかどうか？私たちはこのことをすでに学んで来たのです。

続いて、救われた者に与えられた祝福を見て行きましょう。ローマ5：1－2を見てください。

5:1 ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。

5:2 またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいます。」

☆救われた者に与えられた神の祝福 1－2節

1. 神との平和 1節
2. 神との交わり 2節
3. 神の栄光 2節

祝福として「神の栄光」が与えられます。2節の終わりに「**神の栄光を望んで大いに喜んでいます**」とあります。「**大いに喜んで**」ということばは新約聖書に37回出て来ます。もうすでに私たちが学んだように、ローマ2：17ではこのことばがこのように訳されていました。「もし、あなたが自分をユダヤ人となえ、律法を持つことに安んじ、神を誇り、」、「**神を誇り**」とあるこの「**誇る**」ということばが、5：2に記されている「**大いに喜んで**いる」ということばに当たります。神学者であるマレーはこの「**大いに喜んで**いる」ということば、「**神を誇る**」ということばは「最高のレベルの喜び、また、誇りのことである」と言っています。それは「歓喜の喜び、また、確信に満ちた誇りである」と説明しています。私たちクリスチャンの誇り、私たちにとっての最高の喜びとはいったい何でしょう？パウロはその質問に対してこのように答えています。「神の栄光を望んでいる。それが私にとっての最高の喜びであり、この喜びに勝るものは他にない」と。彼が言いたかったことはいったい何でしょう？「**神の栄光を望んでいる**」、つまり、この地上のことではないのです。その先のこと、天、永遠のこと、天国のことです。なぜなら、私たちは天にあって主な

る神の栄光を見るからです。クリスチャンの皆さん、信仰者の皆さん、あなたはあなたのために十字架に架かって死んでくださったイエスにお会いするのです。その方と顔と顔を合わせてその方を拝するのです。それは私たち信仰者には喜びの日です。私たちはやっと顔と顔を合わせてイエスにお会いすることができるのです。栄光の神にお会いするのです。私たちはその日が早く来てほしいと思います。パウロはそうでした。彼はその日を待望していました。早くイエス・キリストにお会いしたいと願っていたのです。

同時に、私たちが天に上がるそのときに、私たちは栄光のからだをいただきます。栄光ある神を見るだけではありません。その栄光に与るのです。そのときにようやく私たちはこの罪のからだから解放されるのです。この罪から完全に自由にされるのです。もう神の前に罪を犯すことがない、神を悲しませることがないのです。Ⅰヨハネ3：2には「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。」とあり、ヨハネもそのように言っています。イエスにお会いするそのときに私たちは栄光のからだへと変えられると。なぜ、パウロがそのことを待望していたのか？そのときにはもう神を悲しませることがない、罪から完全に永遠に解放されるからです。私たちはこの地上にあっていつも罪のしがらみとの葛藤があります。神に喜ばれることをして行きたいと強く願っていても、悲しいことに、神が喜ばれないことを考えたり、そのようなことを口にした行なったりします。正直、自分自身に嫌気がさすほど私たちは罪に汚れた者です。けれども、このままで永遠を過ごすのではないのです。私たちはそこから完全に解放されるのです。パウロはこの希望に対して「私はただそうあってほしいと願っているのです」と、そのように言ったのではありません。「**大いに喜んでいる**」と言ったのは、そこには強い確信があるからです。「絶対にそのようなになるのだ。私は必ず天にあってこのイエス・キリストにお会いするのだ。この方を目の当たりにし、私のからだは栄光のからだへと確実に変えられる。」と、その強い確信が彼にこのような喜びをもたらしたのです。「最高の喜びだ。その日が私にとって最も素晴らしい日だ。」と言います。

地上にあって、パウロはどれ程神を日々喜ばせて行きたいと願っていたのかがよく分かります。もし、そのように願っていないなら、「罪から解放されることが私にとって最高の喜びだ」と言うはずがありません。そのように彼が言ったのは「もう神を悲しませたくない、私のためにいのちまで捨ててくださった方を悲しませたくない。何とか喜ばせて行きたい。でも、どんなに頑張っても罪の誘惑に打ち勝つことが出来ない。」とその葛藤の中で「早く栄光のからだをいただきたい。そのときが私にとって最高の喜びである。」と望んだからです。パウロも私たちと同じように罪の戦いの中にいたからです。そして、神を愛していたゆえに、彼は早くこの罪を克服したい、罪を犯さない完全な聖い者になりたいと願っていたからです。ゆえに、彼はその日を待っていたのです。「私はその日を確信している」と。

ある人は言うかもしれません。「パウロはそうのように確信していたかもしれないけど、彼がそうに言うのは、彼自身が勝手に思い込んでいたからでしょう。そのように一生懸命信じなければならぬと思っていたに過ぎないのではないですか。」と。私たちはこの聖書を通してその質問に対する答えを見出します。どうすれば私たちはパウロがもっていたこの同じ確信を持って歩んで行くことが出来るのでしょうか？それは私たちがイエス・キリストの復活を見ることです。イエス・キリストは完全にその死からよみがえって来られました。このキリストの復活が私たちに明らかにしたことは、私たち人間はみな、死んだ後必ずよみがえるということです。ある者はよみがえって永遠のいのちに至り、ある者はよみがえって永遠のさばきに至る、そのどちらかです。そして、罪赦されている者はこのようによみがえった後、神とともに永遠を過ごすのです。イエス・キリストのよみがえりというこの歴史的な事実がそのことを明らかにしてくれたのです。パウロはそのことを知っていたのです。キリストは十字架に掛けられて死んだこと、そして、キリストは三日後に、約束通り、その死から完全に肉体をもってよみがえられたこと、この事実が彼にこの確信をもたらした確信を強めたのです。ですから、私たちも将来のことに不安を覚えるなら、イエス・キリストの復活を覚えることです。イエス・キリストは敢然とその死からよみがえって来られた、そして、私たちも同じようによみがえる、私たちはその時にこの栄光の主を見、この罪のからだから解放されるのです。何という素晴らしい約束を神は私たちに下さったのでしょうか！だから、パウロは「**神の栄光を望んで大いに喜んでいます**」と言ったのです。それが私にとっての最高の喜びだと。

皆さん、自分自身に問いかけてみなければいけないことは「私はパウロと同じように聖くされること、罪のないからだへと変えられることを望んでいるかどうか？」ということです。あなたはそのことを望んで今日歩んでいますか？言い換えるなら、罪をどれ程憎んでいるかです。そのためには皆さん、私たちは神のおことばをただ聞くだけの者であってはならないのです。聞いたことを実践することが必要です。なぜなら、先ほど見たⅠヨハネ3：2の次の3節を見ると「**キリストに対するこの望みをいだく者はみ**

な、キリストが清くあられるように、自分を清くします。」とあるからです。つまり、本当にこの真理を悟っている人、本当にイエスにお会いする、私はこの栄光の主にお会いするのだ、それが今日かもしれないと思っている人は、今日を無駄に過ごそうとしないということです。ですから、今日をどのように生きているかというその生きざまが、どのような確信をもって生きているかを明らかにすると言うのです。私たちに分かっていることは、私たちはイエスにお会いするということです。分かっていることはいくつでしょう？それは私たちがいつまで生きるかということです。私たちは自分がいつまでこの地上にいるのか分かりません。もしかすると、今日が最後かもしれません。これまでの過去を振り返って大いに後悔することがあるかもしれない、無駄にしてきた日々を振り返って、本当に私は愚かだったと思うかもしれません。でも、今日が最後かもしれないと、そのことを本当に分かっている人は過去を振り返って嘆くよりも、今日をどう生きるかを考えます。それが大切なことです。もし、無駄に過ごして来たなら、今日をどのように過ごすのかを考えなければいけません。そして、ヨハネが教えていることは、このように天にしっかり目を向けて、イエスにお会いするそのときに栄光のからだをいただくこと、栄光の主に出会うこと信じてそのことを待望して、今日という日を神の前に備えをもって生きるということです。今日、罪から離れて生きようとする、今日、神の前に正しく生きて行こうとすると言うのです。どのような罪も口にしない、考えない、想像しない、犯さないと決心するのです。なぜなら、今日、私は主にお会いするかもしれないからです。そのように生きている人は、その生きざまをもってあるメッセージを発しているのです。「私は早く主にお会いしたい」というメッセージです。パウロはそのようにして生きたのです。問題は、あなたがそのように生きているかどうかです。口で言うことは容易いです。そのような知識は持っています。私たちはいつイエスにお会いするか分からない、今日かもしれない、分かりません。でも、問題は、そのことを頭で知っているけれど、本当に確信をもって今日生きているかどうかです。なぜなら、みことばが教えていることは、本当にそのように信じている人は今日主の前に清く生きようとしているということです。

イエス・キリストを信じる信仰者、私たちクリスチャンに神が与えてくださった素晴らしい三つの祝福、素晴らしい約束、それを見て来ました。イエスを信じた人はその瞬間に神との平和をいただき、そして、その瞬間から日々神との親しい交わりを持つことが許され、そして、その人は神の栄光を見るだけでなく、その中に招き入れられ、この神と永遠をともに過ごすのです。しかも、罪を犯すことのない栄光のからだをいただく、これがクリスチャンです。このような祝福を神は私たち信仰者にくださったのです。ですから、私たちクリスチャンはもっと喜ばなければいけないのです。そのように思われませんか！

☆神がくださった祝福の人生は問題のない人生ではない 3 節

このような祝福の中に私たちは招き入れられた、この現実を覚えることが大切なのですが、同時に、それは「神がくださった祝福の人生」と、そのように言うことが出来ます。今もこの地上を神とともに歩むことができ、永遠を神とともに過ごすことができるからです。

1. 救われた私たちには患難がある

しかし、このような素晴らしい祝福の人生は決して問題のない人生ではありません。悲しみや悩みのない人生ではないということです。多くの人はこの点を誤解しています。聖書を見るなら、みことばの約束はそのような問題や苦しみ悲しみのない人生ではなく、却ってその逆です。イエスを信じることによって多くの問題が生じる、たくさんの摩擦が出て来ると言います。いろいろな悩みが増えて来ると言うのです。なぜなら、イエスがそのように言われているからです。ヨハネ 15：18 には「**もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。**」と書かれています。信仰者はそのことを経験しているはずですが、この世は皆さんのことを喜びません。皆さんの価値観を誉めません。その生き方を誉めません。却って、皆さんは煙たい存在なのです。それはイエスが言われたように「世は私たち信仰者を憎む」からです。なぜ憎むのか、それは世はすでに私たちの「主」を憎んだからです。ですから、信仰者として正しく歩み続けようとするほど、主がお受けになったように、私たちも地上にあって様々な困難や迫害を経験するのです。19 節には「**もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。**」とあります。私たちはこの世のものではないと言います。生まれながらにこの世に属していた私たちは、この罪の世から救い出されて神のものとされたのです。先ほども見たように、サタンの子どもとしてサタンのしもべ、奴隷として生きて来た私たちが、そこから救い出されて神の子とされた、神の奴隷と変えられたのです。ですから、この世界を支配しているものは、私たち神の子を喜ぶはずがない、受け入れるはずがない、却って、憎むと言うのです。20 節「**しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守**

ったなら、あなたがたのことばをも守ります。」、確かに、人々はイエスを迫害しました。だから、あなたがたも迫害すると言います。それは皆さんも経験しておられるでしょう。神の前に正しく生きようと思えば思うほど、いろいろな摩擦が出て来ます。イエスの前に正しく生きようと思うと、その瞬間は喜ぶのですが、次にはいろいろな問題が出て来ます。気を付けなければいけないことがあります。私たちは本質的に、そのような苦しみは歓迎しません。願わくは、それを迂回して、それを避けて通って行きたいと思えます。もし、私たちに選択の余地があって、「こちらは苦しみと問題と悲しみと絶望の道だ。でも、こちらはそうではない」と言われたらどちらを選択しますか？間違いなく、私たちは問題のない道を選択するのではないですか？そうすると、信仰者でも誘惑が出て来ます。どのような誘惑でしょう？出来るだけ問題を避けようとする誘惑です。

ある人々はそのような思いが心を支配しているゆえに、いろいろな問題に遭遇する度に、神に対して失望します。「こんなに一生懸命あなたについて来たのに、こんなにあなたに仕えて来たのに、神さま、私の周りに起こっていることはこのような辛いことばかりです。こんなことなら信じない方が良かった」と。気を付けていなければ、そのような思いが心を支配してしまうことがあります。しかし、パウロたちはそうではありませんでした。彼らの生活に問題がなかったわけではありません。パウロはこのローマ人への手紙の中で「患難さえも喜んでいます。」（5：3）と言っています。「患難」とは「圧迫、苦しみ」のことですが、ブドウやオリーブの実を搾って汁を出すという意味があり、様々な難、苦しみ、失望です。パウロが経験した「患難」が記されている箇所を見ましょう。I コリント 4：9－13「私は、こう思います。神は私たち使徒を、死罪に決まった者のように、行列のしんがりとして引き出されました。こうして私たちは、御使いにも人々にも、この世の見せ物になったのです。：10 私たちはキリストのために愚かな者ですが、あなたがたはキリストにあって賢い者です。私たちは弱い、あなたがたは強いのです。あなたがたは榮譽を持っているが、私たちは卑しめられています。：11 今に至るまで、私たちは飢え、渇き、着る物もなく、虐待され、落ち着く先ありません。：12 また、私たちは苦労して自分の手で働いています。はずかしめられるときにも祝福し、迫害されるときにも耐え忍び、：13 ののしられるときには、慰めのことばをかけます。今でも、私たちはこの世のちり、あらゆるもののかすです。」、むち打たれたことが度々あり、旅をしているときにも様々な難にあったこと、肉体の弱さを経験したこと、貧しかったこと、また、信仰者と信じていた兄弟たちに背かれたこと、そして、そのようなことから来る失望を経験しています。11節で「今に至るまで、私たちは飢え、渇き、着る物もなく、虐待され、落ち着く先ありません。」と言っています。

つまり、パウロもその同労者たちも、私たちが経験したことの無い問題や困難、苦しみ、悲しみ、失望を常に経験するような状況にあったのです。そのパウロがこのローマ5：2でこのように言うのです。「神の栄光を望んで大いに喜んでいます。」と。すばらしい神の祝福を考えたときこれ以上の喜びはないと言うのです。そして、3節では「そればかりではなく、実は、私はこのような患難、苦しみ、悲しみ、痛み、絶望など、これらすべての患難を最高の喜びと思っている。」と言ったのです。彼は「患難は歓喜の対象」だと言うのです。皆さん、このように思わないでください。「パウロだからそう言えるのだ。信仰の勇者だったパウロだからそのように患難を喜ぶことが出来たのだ」と。なぜなら、皆さん、パウロだけでなく信仰者である私たちも、神との平和を喜んでいるはずで、神との平和をいただいたからです。あなたもパウロと同じように、神との交わりを喜んでいるはずで、神との交わりをいただいたからです。あなたもパウロと同じように、永遠の栄光を喜んでいるはずで、なぜなら、その約束はあなたに与えられたからです。では、いったい、パウロと私たちはどこが違うのでしょうか？様々な問題に遭遇したとき、「神さま、なぜですか？」と神を疑ったり、神に怒りをぶつけてしまう私たちです。

そのカギは4節に記されています。「忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。」と。パウロが「患難は最高の喜びである」としたその理由はどこにあるのでしょうか？4節にある「知っているから」ということばは、知識としてもっているとか、このようなことを確かに聞いたことがある、確かに覚えたことがあると、そのような意味のことばではありません。これは「自分の実生活の経験を通して確信している」という意味です。頭で知っているということと確信しているということは違います。確信はより強いものです。もしかすると、私たちの信仰の問題はそこにあるのかもしれない。みことばを聞いているけれどもみことばを実行していないことです。ヤコブはこのように言っています。ヤコブ1：22「また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。」、みことばを聞いてもそれを実行しなければ、いつまで経ってもあなたの信仰は成長しません。却って、あなたのプライドが増して行くのです。なぜなら、「あなたは何を言っているの？私は聖書のこの箇所も知っているし、これだけの箇所を聞いているし、これだけのことを知っている！」と、これはまさにパリサイ人です。確かに、知識は人を高ぶらせます。しかし、その聞いた神のおことばを実践するときに、神があなたをへり下らすのです。パウロは神のおことばを実行しようと努めていました。だから、確かに、彼の信仰は成長したのです。そのことがこの箇所に記されています。

見て行きましょう。

2. パウロが確信していたこと

パウロはローマ5：4の後半で「**知っているからです。**」、確信していると言いましたが、彼は何を確信し知っていたのでしょうか？実際の生活を通して彼は何を学び、そして、「これは絶対に事実だ」と言って何を確信していたのでしょうか？これがカギです。それは「患難には神の目的がある」ということです。私は何のためにこのような患難に遭遇するのか、苦しみを経験するのか、何のために私はこんな悲しみを経験するのか、そのことを知っていたのです。もちろん、勘違いしてはならないことがあります。罪ゆえに受ける苦しみもあるし、罪ゆえに受ける悲しみもあります。どうするか？その罪を悔い改めて正しく歩むことです。今、話していることは、あなたが信仰者として正しく歩んで行けば行くほど、いろいろな問題を経験するということです。ご存じのように、そのような人はたくさんおられます。今、あなたが覚えなければいけないことは、その患難には神の完全な目的があるということです。神はすべてのこと支配しておられるという確信です。

3. 患難の中でも喜びをもつためには？

パウロはいろいろな困難、苦しみや悲しみを証しています。でも、この聖書の箇所を見た時、パウロの証を聞いた時、どこを見てもパウロが神のことを疑ったり、神を責めたり、また、神に対して絶望しているところは一つも見ません。パウロは私たちと違って、「どうして神さま…？なぜこのようなことを…？」とそのように言っているところはありません。彼はどんなことに対しても神を見上げて、そして、神に信頼を置いているのです。それがどのような患難の中にあっても喜びを失わない秘訣なのです。「患難の目的をしっかりと覚えなさい！」、それがこの3節と4節でパウロが教えることです。

4. なぜ、患難があるのか？

何のために患難があるのでしょうか？二つのことを見ます。

1) 患難とは、信仰の真実さを明らかにする神の手段

言い方を変えるなら、信仰が本物かどうかを明らかにする手段です。信じているという人は山ほどいますが、その信仰が本物かどうかを明らかにするのは「患難」なのです。

2) 患難は、信仰の成長をもたらす神の手段

患難は神のすばらしさ、神の偉大さを学ぶ機会です。言い方を変えるなら、私たちの神を知る機会なのです。一つ目から見て行きましょう。

1) 患難とは、信仰の真実さを明らかにする神の手段

皆さんもよくご存じのように、マタイの福音書13章にイエスが「種まき」の話をされたことが書かれています。種を蒔く人が種まきに出かけたという話です。簡単にポイントだけを言いますが、一つ目の種は道ばたに蒔かれました。すると、鳥がやって来てそれを食べました。二つ目の種は土の薄い岩地に落ちたと5節に出て来ます。「**また、別の種が土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったので、すぐに芽を出した。**」、6節「**しかし、日が上ると、焼けて、根がないために枯れてしまった。**」、そして、次に続くのはいばらの中に落ちた種のことです。今、私たちが見たいのは5節に見る「岩地に落ちた種」のことです。イエスはこのことの説明をされています。同じマタイ13：20-21に記されています。「**また岩地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。しかし、自分のうちに根がないため、しばらくの間そうするだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。**」、ある人たちは神のおことばを聞いて拒絶しないのです。喜んでそれを受け入れると言います。ですから、その人は主イエス・キリストを信じたように見えるのです。ところが、それはしばらくの間だけなのです。「しばらくの間」がどのくらいの期間なのかは言われていません。しかし、この人たちの信仰が本物であったかが何によって分かるのでしょうか？みことばのために困難や迫害が起こると、つまり、信仰者として歩んで行くときに、忠実に生きて行くときに、様々な困難や迫害が起こるとこの人たちは離れてしまうと言うのです。ここに記されている「岩地に落ちた種の話」は救われていない人のことです。クリスチャンのことではありません。イエスはこのような人たちがいることをご存じだから、この話をなさったのです。救われていると思っていた人が、困難を経験することで教会から、また、主から離れてしまう、悲しいことですがこれは現実です。それに対して聖書はどのように教えているのでしょうか？彼らの信仰が本物でなかったことの証明だと言います。もしかすると、彼らは教会というクラブに属していただけかもしれません。クリスチャンは非常に優しいし親切だ。また、ある人はクリスチャンが非常に好きだから、尊敬するから彼らと一しょにいるために教会に属したいと、そのようなことがあるかもしれません。また、ある人たちは生まれながらに教会に連れて来られていたために、自分はクリスチャンだと思い込んでいたと、そのようなケースもあるでしょう。いずれにしろ、患難、迫害、困難は、その人の信仰が本物かどうかを、自他ともに明らかに知る機会なのです。

先日、あるクリスチャンから、大学時代に非常に熱心であったクリスチャンと思える一人の人の話を

聞きました。その大学はアメリカでは有名な大学で、たくさんのクリスチャンたちが通っています。そして、聖書研究会が開かれており、彼もそこに属していて非常に聖書に熱心で、しかも、ギリシャ語を勉強しているので、何のためにギリシャ語を勉強するのか？と聞くと、そうすれば原語から聖書の意味が分かるからと答えたと言います。けれども、彼は大学を卒業すると神から離れてしまったのです。「信じられない、一番熱心だったのに。」とそのクリスチャンは嘆いていました。みことばが語られていなかったのではありません。みことばは語られ教えられていたのです。そして、自分でもみことばを学ぼうとしていたのです。しかし、あるときから完全に主から離れてしまう。そのようなことは現実にあるのです。みことばはそのことを私たちに教えてくれます。このようなケースは何を意味するのかということ。多くの場合、彼らは元々救われていなかったのです。

ルカの福音書 22：31、ここでイエスはペテロに対して「ペテロ」と呼んでいません。「シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。」、「シモン」と呼んで、ペテロに対してイエスがお語りになったのですが、「サタンが、あなたがたを」と複数になっています。「麦のようにふるいにかけること」をサタンが願い、そのことを主が許可されたと言うのです。「麦のようにふるいにかける」とは大変な苦しみです。大変な困難、大変な患難がやって来るというのです。ですから、イエスがペテロに言われことは「ペテロよ、大変な困難がやって来る。患難がやって来る。迫害がやって来る。しかも、それはあなただけが経験することではない、あなたたちみなが経験する」ということです。サタンは信仰者がその信仰を弱らせるように熱心に働いています。でも、どれも主の許可なしには出来ないのです。ということは、確かに、みことばが教えるように、神は私たちが耐えられない試練に会わせることはないのですが、それは神が私たちの強さと弱さを知っているがゆえに、神の許可されたことだけが成るからです。なぜなら、サタンのこのような願いであっても、実は、それが私たち信仰者にはプラスになるからです。サタンは私たちを弱らせようとします。しかし、神が許可されるときに、私たちが正しくそのレッスンを受けるなら、そのことを通して、私たちにはプラスになると言うのです。これに関しては後でもう一度見ますが、ルカのこの箇所は、イエスがこのようにペテロや、また、私たちクリスチャンに警告をされているのです。そして、その次の32節には「**しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。**」とあります。主は背後にあって私たちのためにとりなしをしてくれていると言うのです。イエスは私たちのために祈ってくださっているのです。続いて、「**だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。**」と言われました。様々な患難を通して大切なことを学んだ人たちは、他に人々の励ましになるということです。他の人々を力づけて行くことが出来るのです。イエスはここでシモンに、また、同労者たちにこのように告げるのです。

皆さん、私たちも信仰者として正しく生きて行こうとすると、多くの患難がやって来ます、たくさんの摩擦を経験します。でも、覚えなければいけないことは、そのすべての患難には目的があるということです。神の完全な目的です。しかも、その神の完全な目的によってあなたに必要なこと、試練が与えられます。ただ与えられるだけではない、主はあなたのために祈ってくれているのです。そして、主はあなたが失敗しないと確信しておられるのではなく、私たちがどれ程弱くて、ときに失敗することもあるのです。そこで「失敗して、そして、頭をぶつけて大切なことを学んだら、立ち直って、そのことによって他の兄弟姉妹を励ましてあげなさい」と言われるのです。神はここまで私たちのことを分かっているのです。確かに、この地上にあって敬虔に生きようと思う者は、みな迫害を受けます。パウロがⅡテモテ 3：12 で言った通りです。「**確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。**」。

2) 患難は、信仰の成長をもたらす神の手段

同時に、私たちが覚えておかなければいけないことは、神のすばらしい計画があるということです。それが二つ目のポイントになります。実は、「患難は信仰の成長をもたらす神の手段」なのです。信仰の有無を明らかにするだけではありません。私たちに信仰の成長をもたらす神の手段です。そのことを知っている人はすべてのことを司っておられる神を見て、その学びの機会を無駄にしないのです。パウロはこのローマ人への手紙の中で「患難さえも喜んでいる」と言いました。患難の真っ只中であって「私は大いに喜んでいる」と。主から得た喜びはどのような患難にも勝るものだったからです。どのような患難の中にあっても喜ぶことが出来るというこの事実は、私たちに希望をもたらしてくれます。そうではありませんか？パウロは私たちが経験したこともないような患難の中にいても、その中で喜ぶことができたのです。ということは、私たちにも同じことができるはず。先ほども言ったように、パウロからできたこと自分とは違うと思わないでください。パウロも私たちも同じ神を信じ同じ祝福をいただいています。ですから、彼が歩んだように歩むなら、私たちも患難さえもこの上もない喜びとして受け止めることが出来るのです。そのような信仰者に私たちは変えられて行くのです。

しかし、そのためには、様々な患難や問題から逃げてはいけません。最初に見たように、私たちは様々

な患難や苦しみを極度に嫌って近づきたくありません。そのような問題をもたらす原因から出来るだけ遠ざかろうとします。そうすると、私たちのうちに信仰の妥協が始まって行きます。ある人たちは、信仰に熱心になったら大変になるから程々にしておこう、なぜなら、信仰が弱ければ試練も少ないからと言います。どこに問題があるのでしょうか？今、私たちが見て来たように、患難の目的が分かっていないし、それがあなたのためだということも分かっていないのです。さらに言えることは、あなたはあなたの神のことが分かっていないのです。「私の神はこのように私を苦しめる方だ」と、もし、そのように思っているなら、あなたがすることは出来るだけこの苦しみから遠ざかろうとすることだけです。でも、あなたの神がどのような神であるかが分かっている人は、「この患難は私のためだ、私には分からないけれど、その背後には神のすばらしい目的があり、それを通して私がレッスンをしっかり学ぶなら、確実に私の信仰は成長する。」と、このように言います。ですから、問題に会わないようにと間違った道を選択するのではなく、神に信頼して歩んで行こうとすることです。

また、ある人たちは問題に遭遇したときに間違った解決方法を求めます。「どんなに嫌なことでも肯定的に捉えましょう、悪く考えないように努めましょう」と。また、ある人たちは「嫌なことがあるときは私はそのストレスを発散するためにパーと遊びに行きます。」と。皆さん、このようなことは正しい解決方法ではありません。それはイエスを知らない人たちが選択する方法です。私たち信仰者はそうではなくて、神の前に正しい信仰生活、正しい選択をすることが必要なのです。そのためには、問題が何であれ、それから逃げることなく、それと向き合って、そのことを正しく解決して行こうと選択することが必要なのです。Ⅱコリント 1：8－9にはパウロの苦しみが記されています。「**兄弟たちよ。私たちがアジャで会った苦しみについて、ぜひ知っておいてください。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、ついにはのちさえも危くなり、9 ほんとうに、自分の心の中で死を覚悟しました。これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。**」、パウロは大切なレッスンを学んだのです。自分の力で問題を解決しようとするそれまでの生き方から、神の力、神の恵みに頼って問題を解決しようとする、そのような信仰者へ変えられたと言うのです。

私たちは生まれながらに自分で何とか解決しようとしします。イエス・キリストを信じた後も自分の知恵や力、経験で解決しようとしします。それは問題を解決するどころか深みに嵌って行きます。クリスチャンでさえも落ち込むことを許している人、容認している人がいます。信仰が落ちてしまっただけのようにして神を喜ばせることが出来るでしょうか？神はそのような生き方を私たちに教えていません。私たちに必要なことは、様々な困難や患難や苦しみがあっても、それには目的があることをしっかりと覚えること、同時に、その中にあって喜びをくださる神の力に頼って生きて行こうとすることです。パウロはそのことを学んだと言うのです。悲しいことですが、人間はもう自分ではどうすることも出来ない境遇に置かれてしまっただけで、神の方に目が向くのです。そして、私たちはそこから大切なことを学ぶのです。問題があろうとなかろうと、私たちに常には神の助けが必要だということを学ぶのです。

同じⅡコリント 12章の中に、パウロは三度「私からこのとげを取り去ってください」と神の前に祈ったことが記されています。12：8「**このことについては、これを私から去らせてくださるようと、三度も主に願いました。**」、その時、主はどのような答えをパウロに与えましたか？9節「**しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。**」と、神の力は私たちの弱さのうちに現われるのです。ですから「私は強い」と言って自分の力でしようとするなら神は働けないのです。神の前に私たちが「主よ、どうぞ助けてください。あなたのみわざを為してください」と主に依存するときに、神の力が働くのです。「**ですから、…**」とパウロの結論です。「**私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。**」。自分の弱さを知ることは恥ずかしいことではありません。それは大切なことです。なぜなら、そのときに初めて、私たちは神の力に信頼して歩んで行こうという選択が出来るからです。自分ではどうすることも出来ない心で底から確信するまで、残念ながら、私たちは自分の知恵や力、経験に頼ることを止めないのです。しかし、主にゆだねて歩むときに為される神のみわざによって、私たちは教えられ、励まされ、そして、ゆだねて生きることの喜びを学んで行くのです。すべてのことを通して、私たちは私たちの神がどのような神なのかを学んで行くのです。頭ではなく実感して学ぶのです。確かに、この方はすばらしい神だ、確かに、この方に信頼を置いたときに失望させられることはない。そして、これらの経験を通して、その歩みを通して、私たちの信仰は成長するのです。

ですから、最後にクリスチャンの皆さん、あなたがどのような問題に直面されているのか私には分かりませんが、もし、あなたが今、その直面している中で希望を失いかけているなら、この様々な試練は自分のためであるというその目的をしっかりと覚えることです。あなたの信仰が成長するために神がその問題をくださったのです。なぜでしょう？あなたの信仰が成長するなら、あなたの神の栄光が現われるからです。そのために、神はあなたのために特別に様々な苦しみや様々な困難や悲しみを与えてくだ

さるのです。だから、疑うのではなく、その問題から逃避しようとするのではなく、このような約束をくださった神を信頼して、その神に従い続けて行くことです。あなたがそこから学ぶことができるレッスンをしっかりと学ぶことです。あなたのために、そして、この神の栄光が現わされるために、そのレッスンが必要なのです。どうぞ、神が備えてくださった学びの機会を無駄にすることがないようにしてください。今、あなたが置かれている状況は、あなたにとって必要な状況なのです。しっかり主を見上げることです。そして、その背後におられるあなたのすばらしい神を信頼することです。そのときにあなたは変えられて行きます。神のみこころに添って変えられて行くのです。そして、あなたは間違いなく神の栄光を現わして行きます。

覚えていますか？詩篇の著者はこのようなことを言いました。詩篇 119：71 **「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」**、苦しみを通して私たちは学んで行くのです。そして、私たちを愛する神は、敢えて、私たちのために、大切なレッスンを学ぶために、様々な苦しみを与えてくれるのです。どうぞ、主を信頼して、今あなたに神が与えてくださっているレッスンを学んでください。主は、今、必要なことをあなたに為さろうとしてくださっているからです。